



令和元年度 後期学校評価

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、AB評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断した。また、CD評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

【2】全体的な傾向

児童については、上記の評価基準からすると、すべての項目において【A】【B】の合計が80%を超えている。しかも、ほとんどが90%に近い回答状況を得られている。しかし、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、16項目中【D】評価のなかった項目は6項目にとどまった。【C】【D】評価の割合が比較的高かったのは、①「学校は楽しかった」③「授業中に発言や質問、または意見が言えた」⑦「毎日、宿題など落ち着いてできた」⑭「食べ物を大切にし、好き嫌いなく食べる事ができた。」の4項目が挙げられる。

保護者においては、昨年度と同様に、ほとんどの項目が【A】【B】の合計が80%を超えている。また、17項目中13の項目で【A】【B】の合計が90%を超えており、全体的な傾向としては、肯定的な評価をしている保護者の割合が高いことが示されている。

職員においては、【A】【B】合わせた肯定的評価は、すべての項目において100%に達しており概ね満足できる状況にある。また、肯定的評価【A・B】項目【A】評価のみに着目した場合は、前期には見られなかったが、後期においては1項目が【A】評価のみの結果になっている。【A】評価で80%を超えているものは少ないが、前期と比較すると好転しているものが多く、多くの職員が改善に向けた努力をしていると判断できる。

児童・保護者・教職員の3者ともに、ほとんどの項目で肯定的な【A】【B】評価が80%を超え、否定的な【C】【D】評価が20%を超えるものは、保護者アンケートの③「子どもは、家の仕事を進んでしていた」④「子どもは、毎日、宿題を落ち着いてできた」だけであった。前期、これに当てはまっていた⑬「子どもは、食べ物を大切にし、好き嫌いなく食べる事ができた」は、24%から17%に7ポイント向上する結果となっている。総体的に前期と比べても【A】【B】評価が増え、【C】【D】評価が減る結果を得られている。

学校生活の楽しさの調査項目（児童：「学校は楽しかった。」 保護者：「子どもは楽しく学校へ行っていた。」）では、65%の児童が【A】と回答し、【B】も含めると88%の児童が学校を楽しく感じている。しかし、9名の児童が【C】、4名の児童が【D】と回答している。前期では、【C】4名、【D】1名だったことをから否定的回答は増え、前期実施以降、児童が何かしらの不安を抱えていることが分かる。また、保護者の回答を見ても同様のことが言える。【C】よりも【D】の回答が多いことから、保護者がとても心配していることが分かる。

以上を踏まえると、本校は現在、概ね「満足できる状況」にあると考えられる。しかし、分野によっては早急に対応しなければならないものもある。今後、不安を感じている児童に対して、個別に対応策を検討したり、集団の在り方をさらに高めたりするなどして、よりきめ細やかな指導を継続していくことが課題であると考えられる。

【3】個別の分析

(1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力
③学習意欲・態度

学習内容の理解に関する項目（児童：「授業（学習）はわかった。」保護者：「子どもは、授業の内容を理解できた。」）では、児童 95%，保護者 97%が【A】【B】の肯定的評価となり前期の肯定的評価より高い評価を得ている。これは前期同様、児童のまじめな学習態度や、少人数でのきめ細かな指導、また、数々の有益な体験活動に基づいた学習指導の成果であると考えられる。

本校では、学習でつまずきの見られた児童を対象に、放課後個別に補習を行う取組を継続して行っている。また、全校一斉に漢字と計算の学力診断もそれぞれ毎月行っている。これらの取り組みによって、児童の学習の定着の度合いがより詳細にわかり授業内容の充実に直結するため、今後も継続していきたい。



また本校では、昨年度まで南アルプス市教育委員会指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」の研究指定校として「他との関わりの中で、互いに学び合う児童の育成」～主体的・対話的で深い学びを通して～を研究テーマとして、教師一人一人の指導力向上をめざし、校内研究会や公開授業研究会を行ってきた蓄積がある。その効果が今年度においても結果として得られているのではないかと考えられる。今年度もこれまでの成果を生かしながら、継続して“主体的・対話的で深い学び”になるような授業づくりの研究に、職員一丸となって取り組んでいる。一人一人の思考を大切にし、学びの質を高められるように、今後も一層の研究活動を重ねていく。



一方で、保護者アンケートにおいては、前期よりも肯定的評価は2ポイントほど増えてはいるが、家庭で落ち着いて学習に取り組めていない状況が依然として続いている。

本校では家庭学習の充実のために“家庭学習の手引き”を配布している。“学び”は、自分から進んで行ってこそ自分のものとなりうるものである。しかし、その習慣は自然と身に付くものではない。学校や家庭での働きかけがあつて、徐々に定着していくものだと考えられる。家庭学習は

家庭での生活習慣と大きな関係があり、学校と家庭がお互いに協力をして取り組むことが大切であるので、今後も児童・家庭に対して指導・啓発を継続して行っていきたい。

(2) 思いやりの心もち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

※いじめに対する取組について

まず、いじめに関わることについては、児童同士の優しい付き合いや、意地悪なことを繰り返ししないなどについての否定的評価はやや増加して、前期より若干高い結果となった。

「友達にやさしくできた」児童が90%以上存在している反面、嫌な思いをさせられている児童も10%以上存在しているのである。2学期においても、様々な行事を通して全校的交流の場をもち、児童相互の交流を通して互いの理解が深められたり、思いやりの心が持てたりすることや望ましい人間関係作りを目指してきたが、十分ではなかったといえる。職員における自己評価においても、前期と比べ【A】評価が低くなっている。気持ちを引き締めて児童の観察や児童理解に努め、小さなトラブルも丁寧に対応する姿勢を基本として、いじめへの未然防止・早期発見・早期対応を継続していかなければならない。今後も、いじめ防止は本校の最重要課題としてとらえ、きめ細かな指導を継続していく所存である。

「こころ」を育てるための様々な教育活動については、どれも高い評価を得ている。特に、「読書活動や音楽活動等の情操教育を推進することができた。」については、全教職員が【A】評価の回答となった。

本校はユネスコスクールの指定を受ける県内でも稀有な学校であり、周辺地域もユネスコエコパークとして世界に誇る環境を備えているが、教育活動においても、その環境を有効に利用することができたことの表れととらえることが出来る。また、その教育を効果的に支援する地域の教育力も大きな支えとなっている。



あわせて、ユネスコスクールとしての取り組みの一つとして、4・5・6年生を対象に、南アルプス教育委員会文化財課保阪太一様、高尾徳見神社崇敬会神楽部の皆様に講師に招いて、地域に残る徳見神社、高尾の夜祭についての学習を行い、郷土の文化と伝統行事にふれ、それを大切にしている人たちの努力を知り、郷土を愛する心を育てる活動を行った。また、6年生では、総合的な学習の時間の中で、南アルプス市文化財課と協力して「西地区有名計画」を継続して行っている。現在、まとめの学習を行っているが、昨年度の6年生が調べた地域の文化財の情報は、グーグルマップ上にリンクさせ、世界中のどこから誰でも自由に閲覧できるようになっている。

継続して行っていることでは、毎年学校を開放して道徳授業を公開し、来校者から頂いた感想をもとに反省会をもつなどして、さらなる内容の充実を図っている。また、講師を招いて小笠原流礼法を通して礼儀・所作等を学び、児童の道徳的実践力の向上を図っている。

その一方で、携帯やスマホ(以下、携帯電話等)の保有率は、72%ほどに達している(児童回答)。家庭生活の多様化により、保有率は年々増加傾向にあるが、携帯電話等の使い方の約束が決められている家庭も92%に増加している。本校では、5年生の児童と保護者両方を対象にして「ケータイスマホ安全教室」を継続して開催していることもあり、使用に際しての約束を決めることが定着してきているように考えられる。今後も携帯電話等の利用のみならず、安易なネット接続が招く犯罪やトラブルに巻き込まれないために情報リテラシー教育と合わせて、継続して啓発活動を続けていく。

(3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】



全体として高い評価であった。

児童の体力については、全国的には体力の回復傾向が見られるが、本校において走力は高かったものの、敏捷性や持久力、跳躍力、投擲力については課題が残った。このような状況を鑑みて、本校では、体を動かすことの楽しさや外遊びの楽しさを児童に知らせることによって体力の向上を図ろうとする取り組みを継続して行っている。児童会主催による「たてわり班遊び」や体育委員会による外遊びの呼びかけなどにより、児童の「校庭

で運動や遊びができた」の項目は【A】【B】評価が向上している。

また、児童の「食べ物を大切にし、好ききらいなく食べることができた」の項目は、いつも気になる項目であるが、前期と比べると【C】【D】評価が少なくなっている。季節に応じた栄養バランスを考えつつ、児童の食べやすいメニューを工夫してもらっていることもあるが、好き嫌いがある児童に対しての職員の働きかけや、家庭の働きかけが大きいと思われる。学校だけでは克服できないことでもあるので、今後も家庭と連携して指導していきたい。

安全・防災については、例年、南アルプス市消防本部の協力を得ながら、教師による通報訓練（火災発生時を想定）や煙道体験を実施している。しかし、今年度は、機械の不具合により煙道体験をすることができなかった。実践的避難訓練として、児童に体験させたかったのだが非常に残念である。安全・防災に関わっては、どこにいても、いつ起こっても対処できるような力を身につけさせたい。より実践的な訓練内容を計画して、もしもの時に児童が困らないようにさせていきたい。



隔年ではあるが、南アルプス警察署生活安全課の協力を得ながら「防犯教室」（不審者侵入訓練）も行うことも予定している。今後も関係機関と連携をした防犯・防災訓練を続けていく予定である。

（４）家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】



高い評価を得ることができ、満足な状況であった。

地域の教育力や人材活用については、授業でのボランティア、PTA活動や登下校の児童見守り活動等を通して行われていて、これらについて3者とも大変満足していることがわかる。また、保護者や地域の皆様の教育力や人材を生かした学習については、多くの場面で協力を頂き実施することができた。このような体験活動は、児童の学力の向上とともに、学校・家庭・地域の連携を深める大きな要素となる。児童は、保護者

や地域の皆様のご支援に対し、とても満足しており楽しみにしている。さらに、私たち教職員も、登下校時の見守り・横断補助・付き添いなど、児童の安全確保に大きなお力添えをいただいていることに感謝しているところである。これからもこの関係を大切にして、今後も多くの活動が継続して頂けるよう努力していく所存である。

